

見くびられるニューヨーク・タイムズ

——不正直で偽善的なウクライナ報道

【訳者注】この論文は、いろんなことを示唆している。アメリカの“売春メディア”を踏襲する日本のメディアと、ロシア担当大臣まで作って、ロシアとの関係を見直そうとする日本政府に読んでもらいたい。

メディアの事情は日米共通である。最後のコメントにあるように、読者や視聴者を騙し、重大な事実を隠ぺいする、という職業倫理に悖ることをすれば、その代価は読者離れである。私は最初、メディアは何かを怖がっているのかと思っていた。それなら同情すべき余地はある。しかしどうもそうでなく、彼らは、個々の世界情勢解説者も含めて、権力者の傘下にいて身の安全を守りたいだけらしい。権力者が何者であるか、世界の混乱や悲劇の元凶が何であるかを問うことは、タブーになっている。これは体質的な腐敗である。

日露会談にウクライナは出てこないかもしれない(トゲのような、安倍さんのポロシェンコ詣では出てくるだろうが)。しかし、日本政府が、誤解に起因するロシアへの疑心や侮蔑を心の中にもちながら会談するのと、正しく理解した上で会談するのとでは、大きな違いが生ずるはずである。ウクライナ問題の正しい解説は、もちろん他にいくらでもある——

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160714.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160718.pdf>

Robert Parry (Consortiumnews.com)

August 27, 2016

要約：ある NY タイムズの評者が、アメリカ人はあまりにも“レベルが低く”、ロシアが 2 年前にウクライナを侵略したことを知らない、と言っている。しかしその“侵略”は、ほとんどタイムズの編集者や他の宣伝屋の頭の中にあるものだと、ロバート・パリーは言う。



レベルの低いアメリカの民衆の政治的無知をからかい、“客観的事実”の死を嘆く コラム記事 で、ニューヨーク・タイムズのコラムニスト Timothy Egan は、なぜこれだけ多くのアメリカ人が、単に事実を伝えることになっている主流メディアを信用しなくな

ったのかを教えている。<http://www.nytimes.com/2016/08/26/opinion/the-dumbed-down-democracy.html?action=click&pgtype=Homepage&clickSource=story-heading&module=opinion-c-col-left-region®ion=opinion-c-col-left-region&WT.nav=opinion-c-col-left-region>

イーガンは客観的事実だとしてこう述べている——「もし 16 パーセント以上のアメリカ人が、地図上でウクライナの場所を示すことができたなら、本当はロシアの侵略があった 2 年後に、ロシアはウクライナを侵略しようとしていないなどと、トランプが言ったとき、大騒ぎになっていたであろう。」

<https://www.washingtonpost.com/news/monkey-cage/wp/2014/04/07/the-less-americans-know-about-ukraines-location-the-more-they-want-u-s-to-intervene/>

しかし、ロシアがウクライナを“侵略した”というのは“事実”ではない。そして特に、もしあなたがついでに、アメリカは、シリアもリビアも他の多くの国も、実は侵略していないと言ったとしたら、それも事実ではない——これらの国々を、アメリカ政府は空爆したり、“特別戦力”を送って攻撃しているのだから。にもかかわらず、NY タイムズは、これらの軍事行動を決して「侵略」だと言わない。

更にこの有力紙は、アメリカ政府が国際法を破ったことを非難していない——あらゆる場合にアメリカ軍は、他国の主権的領土に、当該政府や、国連安保理の許可もなく侵入し、それが不法侵略行為に相当するにもかかわらず。

言い換えると、タイムズは、アメリカやその同盟国の一つの行動を報告するときには、意識的にダブル・スタンダードを用いている（トルコの最近のシリア侵略が、ただの“介入” *intervention* だったことに注目せよ。）一方、タイムズは、たとえばロシアのようなアメリカの敵の行動は、全く別の扱い方をする。

ウクライナについての曲がった報道

タイムズのウクライナ報道は、特に不正直で偽善的である。タイムズは、米政府が 2014 年 2 月 22 日に、選挙で選ばれたビクトル・ヤヌコビッチ大統領を倒した暴力的クーデタを奨励し、支援したことの、確固たる証拠を無視している。そこには、クーデタ前に傍受された、国務次官補ビクトリア・ヌーランドと、駐ウクライナ米大使ジェフリー・パイアットの間の、新しい政府を誰がリードするか、どうやって“このものを出産させるか”を、議論している会話も含まれる。

タイムズはまた、クーデタ前に警察を殺したネオナチスや過激国家主義者のこと、クーデタ中に政府の建物を占拠したこと、そしてクーデタ後にロシア民族のウクライナ人虐殺の先頭に立ったという肝心の役割を、故意に軽視した。もしタイムズのニュースから、SS (ナチス親衛隊) 気取りの者たちの役割を見つけようと思えば、ウクライナ危機の他の側面を扱った、いくつかの物語の最後のパラグラフを探さなければならない。

コンテキストを省きながら、タイムズは繰り返し、ロシアがクリミアを“侵略した”と主張した。そのくせ奇妙なことに、クリミアの海岸に上陸する作戦行動の写真も、ロシアの戦車がウクライナ国境を破ってクリミアに侵入する写真も、パラシュート部隊が空からクリミアの戦略的目標に舞い降りる写真も、ただの1枚も示していない。

そのような“侵略”の証拠がない理由は、ロシア軍部隊が、セバストポリ港を基地とする合意の一部として、すでにクリミアに駐留していたからである。だからそれは非常に奇妙な“侵略”であった。なぜなら、ロシア部隊は“侵略”前からすでにそこにいたのであり、彼らのクーデタ後のかかわりは、平和的にクリミア人民を、新政権のネオナチスの略奪から保護することだった。この少数のロシア軍部隊の存在はまた、クリミアの人々が、ウクライナから分離してロシアに再統合するかどうかの投票を可能にしたのであり、彼らはこれを 96 パーセントの多数決で決めたのだった。

東部地域は、ヤヌコビッチの政治的地盤であり、ここでは多くのウクライナ人がクーデタに反対した。もしロシアを責めるとすれば、それはロシアがいくらかの軍事装備と、おそらく、いくらかの特殊部隊を供給する決意したことだが、それは、民族的ロシア人と他の反クーデタ・ウクライナ人が、ネオナチスの“アゾフ”大隊による攻撃と、クーデタ支配下のウクライナ軍の戦車や銃砲から、自衛するためだった。



ウクライナの「アゾフ」大隊のかぶっているヘルメットの、明らかなナチス印。(ノルウェイの映画クルーによって撮影され、ドイツのテレビで放映された。)

しかし、正直な新聞で正直なコラムニストなら、こうしたコンテキストを省略しないであろう。彼らはまた、“侵略”とか“侵入”といった非難の言葉をも避けるであろう——もちろん彼らが、アメリカ政府とその“同盟国”の行動にも、客観的に同じ言葉を使うなら別だが。

その種のニュアンスやバランス感覚は、ニューヨーク・タイムズや、ティモシー・イーガン

のような、その“集団思考”記者たちから期待できることではない。ロシアについて報告するとなると、それは来る日も来る日も、冷戦時のプロパガンダである。

そしてこれは、これだけの問題ではない。タイムズや、実にアメリカの他の主流メディアがウクライナ危機について報道するときに示す、冷酷に曲がった見方は、職業倫理の欠如を示すもので、それは 2002 - 03 年のイラク危機や、他の破局的な、米対外政策決定のときの、戦争肯定記事にも明らかだった。

この主流メディアの曲がった見方を、大衆がますます認識しつつあることは、アメリカの民衆の大きな部分が、“客観的”ニュース報道とされるものを聞こうとしなくなった理由である（それは客観的ではないからだ）。

実際、ティモシー・イーガンなどより、ロシアやウクライナのことをよく知っているアメリカ人たちは、タイムズや他の主流ニュース機関から、本当の話を聞けないことを知っている。これらコケにされないアメリカ人たちは、アメリカ政府のプロパガンダを一目で見抜くことができる。

読者コメントの一例：

ニューヨーク・タイムズや他の主流売春メディアは、彼らの職能や責任を裏切ることの代価が、読者離れであることに、次第に気づきつつある。NYタイムズが“客観的眞実”と呼ぶものは、実は米政府のプロパガンダであり、それは我々の喉に突きささる。そこで我々はそれを吐き捨て、もっと正確で信頼できる、眞実を語るオンライン・ソースを求める。